

彦根市立病院移転新築事業

受賞機関 彦根市

はじめに

彦根市立病院は、明治24年(1891)4月に公立彦根病院として開設され、110余年の歴史と伝統のある病院として、井伊大老35万石の居城である国宝彦根城の中濠に面した中心市街地に立地している。度重なる増改築を行ってきたが、狭隘な施設の解消が図れず、また、老朽化が進んできたことから、現在の市の人口重心地である犬上川河口、琵琶湖岸に、市民をはじめとした湖東地域医療圏域16万6千人の健康と命を守る地域中核病院として新たに生まれ変わった。事業の概要

構造・規模：鉄筋コンクリート造、
地下1階・地上8階・塔屋2階

敷地面積：50,245.48㎡

延べ面積：37,721.70㎡

搬送設備：EV11基、荷物専用EV1基、
ES上下各1基

その他：免震構造・緊急離発着場・省エネ他
事業の特徴

(1) 環境保護

関西の水瓶であり豊かな漁場である琵琶湖の環境保護に最大の注意を払った。特に、工事用水が雨に混じって琵琶湖に流入しないよう、また、土工事中に発生する水を処理するため、リチャージウエル工法を採用し、除鉄装置を設けるなどの対策を講じ環境保護に努めた。

(2) 環境エネルギー

南向き病棟、庇、屋上緑化、自然通風、光庭を利



自然豊かな犬上川からみた病院

用した自然採光、
ブラインド内蔵ペ
アガラス樹脂サッ
シによるエネルギ
ー消費の軽減。ソ
ーラーパネルによ
る給湯、太陽光発



病棟ディホールからの眺望

電、雨水の再利用、コ・ジェネの採用、省資源タイプの機器の採用などにより省エネルギー化を図った。

(3) 外観・内観デザイン

琵琶湖の美しい環境に調和した外観と、風景を取り込んだリゾートホテルのような室内環境とした。屋根面は一部ソーラーパネルの架台としても利用したが、琵琶湖の風景と彦根城を中心とする旧市街地の街並み景観とも巧く調和が図れた。外観は、湖岸の砂浜の色を意識した上層部外壁タイルと下層部のカーテンウォールとが隣を流れる犬上川や琵琶湖の水面と呼応している。内観については廉価な材料を使いながらも、色やパターンによって豊かで人にやさしい環境をも実現できた。

おわりに

「住みなれた地域で健康をささえ、安心とぬくもりのある病院」のコンセプトのもと、限られた予算、規模の中、無駄のない合理的なプランと、将来の対応としてのフレキシビリティも確保できた。彦根の街の歴史、琵琶湖の風景、清らかな川の流れ、山々の表情、彦根を取り巻く豊かな環境との調和を図り、近代的なソーラーパネルを載せた勾配屋根が彦根城や伝統的な街並みのスカイラインに呼応し、病棟のディホールからは、180度パノラマの琵琶湖の風景と彦根城、そして伊吹山が一望できる。また、病室の窓や廊下の突き当たり、そこには、彦根を取り巻く四季折々の自然や長い歴史の中で営々と培ってきた風情を感じさせる。それは、患者さんの心を癒すだけでなく、心身のぎりぎり働く医師やスタッフにとっても元気の源となると確信する。

受賞賛助会員 鹿島建設(株)関西支店